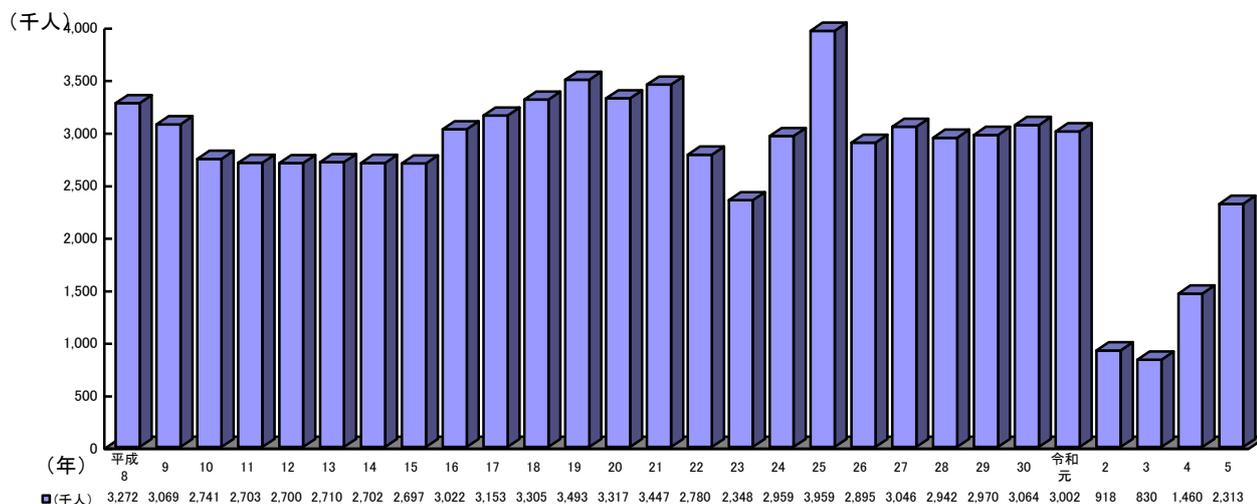


# 令和5年会津若松市観光客入込みの概況について

【会津若松市観光客入込の推移】



令和5年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行となった5月以降、制限されていたさまざまな社会・経済活動が次第に再開されたことにより、本市を訪れた観光客の総数は、2,313千人と前年から853千人の増加（対前年比158.4%）となり、また、令和元年比で77.0%まで回復しました。

東山・芦ノ牧温泉の入込数総計は、対前年比約114.7%となりました。市街地の旅館・ホテルについても、ビジネス客を中心に比較的安定した利用があり、対前年比106.5%となりました。市内観光施設は、鶴ヶ城天守閣の入場者が対前年比150.1%（令和元年比86.8%）、他の主要観光施設は平均で対前年比115.0%（令和元年比87.0%）の入込でした。また、外国人観光客については、両温泉地域の宿泊者は対前年比で974.2%、コロナ前の令和元年と比較すると161.8%と年間を通して大きく増加しました。

教育旅行は、全体で1,049校（対前年比85.2%）となり、コロナ前の訪問地へ戻す動きもあり、令和4年度に比べて来訪校数が減少しました。一方、県外からの来訪校数については、積極的な誘致活動が功を奏し、新規に65校が来訪するなどの動きもあり、コロナ前の令和元年度と比較して増加傾向にあります。

今後は、第3次市観光振興計画の中間見直しで新たに位置づけた「観光消費額の拡大」に向け、観光サービスの質・満足度の向上はもとより、平日と休日等の観光需要の平準化による観光産業の生産性向上といった新たな視点に留意しながら、取組を進めてまいります。